

情報連絡員報告総括表（令和4年10月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況		
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
製 造 業	食料品	1	3			4		2	2		1	3		1		3		3	1		4		1	3		1	1	2
	繊維工業	3			1	2		2	1			3			3			3			3			2	1		2	1
	木材・木製品			1		1					1				1			1				1		1				1
	紙・紙加工品	1		1		2		1	1		1		1		1	1		2				2		2			2	
	印刷		1			1		1			1				1			1			1			1			1	
	化学・ゴム																											
	窯業・土石製品		1	2		3		1	2			2	1		1	2		3			3			3			2	1
	鉄鋼・金属			1			1		1			1				1		1				1		1				1
	一般機器	1	2		2	1		3			2	1		1	2		1	2		3			2	1		2	1	
	電気機器		1			1			1			1				1			1		1			1				1
	輸送機器		1				1		1			1				1		1			1			1			1	
その他																												
小計		6	9	5	3	15	2	10	9	1	2	14	4	1	6	13		16	4		16	4	1	17	2	1	11	8
非 製 造 業	卸売業		2			2		2			2			1	1		2						2			1	1	
	小売業	2	2	2		5	1	3	3		3	3	1	2	3	1	3	2					6			1	3	2
	商店街		1				1				1			1			1						1			1		
	サービス業	1	3	1				1	4		1	4		1	2	2		4	1				4	1		3	2	
	建設業	1	2	1					4		1	2	1	1	2	1	1	3					4			1	3	
	運輸業		1						1			1			1			1					1			1		
	その他		1						1			1			1			1					1			1		
小計		4	12	4		7	2	7	13		2	14	4	3	10	7	2	15	3				19	1	2	13	5	
合計		10	21	9	3	22	4	17	22	1	4	28	8	4	16	20	2	31	7		16	4	1	36	3	3	24	13

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和3年10月～令和4年10月)

三重県中小企業団体中央会

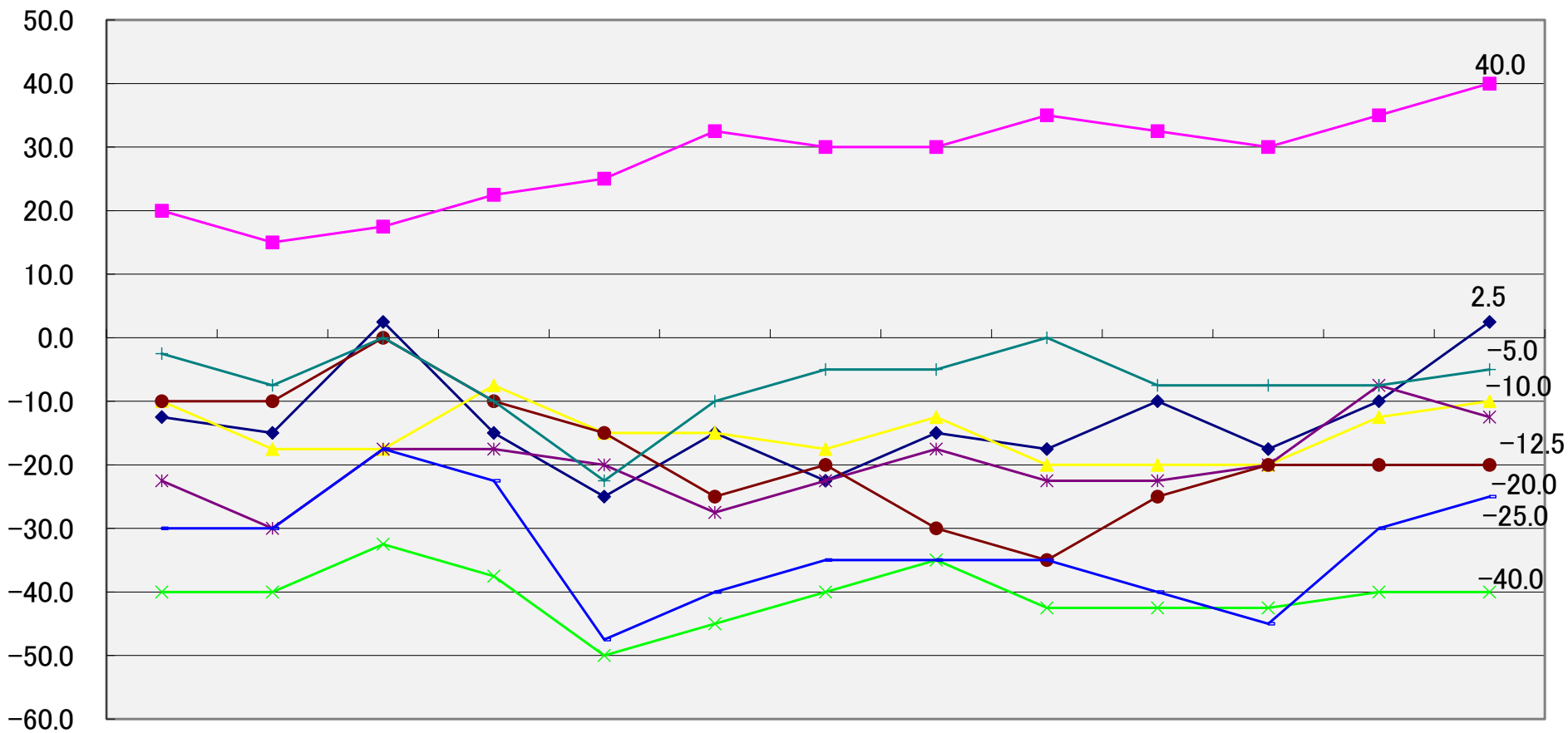
連絡員総数 40名

	3/10月	11月	12月	4/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	増減
売上高	-12.5	-15.0	2.5	-15.0	-25.0	-15.0	-22.5	-15.0	-17.5	-10.0	-17.5	-10.0	2.5	12.5
販売価格	20.0	15.0	17.5	22.5	25.0	32.5	30.0	30.0	35.0	32.5	30.0	35.0	40.0	5.0
取引条件	-10.0	-17.5	-17.5	-7.5	-15.0	-15.0	-17.5	-12.5	-20.0	-20.0	-20.0	-12.5	-10.0	2.5
収益状況	-40.0	-40.0	-32.5	-37.5	-50.0	-45.0	-40.0	-35.0	-42.5	-42.5	-42.5	-40.0	-40.0	0.0
資金繰り	-22.5	-30.0	-17.5	-17.5	-20.0	-27.5	-22.5	-17.5	-22.5	-22.5	-20.0	-7.5	-12.5	-5.0
設備操業度	-10.0	-10.0	0.0	-10.0	-15.0	-25.0	-20.0	-30.0	-35.0	-25.0	-20.0	-20.0	-20.0	0.0
雇用人員	-2.5	-7.5	0.0	-10.0	-22.5	-10.0	-5.0	-5.0	0.0	-7.5	-7.5	-7.5	-5.0	2.5
業界景況	-30.0	-30.0	-17.5	-22.5	-47.5	-40.0	-35.0	-35.0	-35.0	-40.0	-45.0	-30.0	-25.0	5.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

3/10月 11月 12月 4/1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月



◆ 売上高 ■ 販売価格 ▲ 取引条件 × 収益状況 * 資金繰り ● 設備操業度 + 雇用人員 — 業界景況

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いている。今年は8月に雨が多く葉菜類を中心に初期生育が遅れていたが、その後の天候により順調に生育しており、例年並みの収穫が見込まれている。また、販売状況においても新型コロナウイルス感染症の影響により、お土産物の漬物の販売及び外食産業での需要の減少が続いていたが、旅行者の増加などにより、お土産物の需要がかなり回復してきた。一方で、ウクライナ戦争の影響による諸資材の高騰により、製造コストに影響が出ている。
	醤油味噌	10月に入り仕込み原料高でも、組合員の仕込み状況はおおむね予定通りである。調味料類の値上げが当初予定にはなかったため、組合員にはコストアップの要因である。円安がますます進行し、輸入原材料の高騰が続く。大手メーカーの業務用商品の来年2月からの値上げが発表された。11月に国の補助事業で出展計画していた、中国での展示会が約2週間延期となり、中国のゼロコロナ対策の影響もあり今回は参加を断念した。組合員1社が廃業により脱退の申し出があった。
	製麺	10月、11月、12月はようやくイベント行事が開催される。組合としても各イベントに参加して「伊勢うどん」を盛り上げていく。11月の「第10回全国ご当地うどんサミット2022in蒲郡」で販売する伊勢うどんには、イベント初となる松阪牛をトッピングし、肉、麺とも三重県産の伊勢うどんで勝負をかけ、アピールする。まだまだ厳しい状況ではあるが、前向きに取組んでいく。
繊維工業	衣料縫製	入国緩和も見られ、少しずつではあるが、コロナ前に戻りつつある。
	テントシート	引き続き、材料等の仕入価格が上昇している。製品価格に転嫁しないと吸収しきれなくなっている。
木材・木製品	木材	ウッドショック、ウクライナショックの影響は薄れつつあり、前月比、前年同月比とも弱含み傾向ではある。
紙・紙加工品	紙器段ボール	円安や食品を中心とする値上げラッシュで需要が停滞し、我々中小の段ボールメーカーは苦戦をしている。段ボール原紙の値上げがほぼ決着し、これから段ボールシート、ケースの値上げ要請が本格的に始まる。今年2回目の値上げになるのでユーザーへの値上げ依頼が難航しそうである。尚、日本製紙連合が発表した9月の紙と板紙の国内出荷量は、182万5千トンで、前年同月比0.7%の減少、そのうち段ボール原紙は2.3%の増加で76万9千トン。新型コロナウイルス感染症が少し落ち着き、人出の回復もあり、飲料や通販向けが増加した。
	古紙	9月の仕入れ量：段ボール・約98±3%、新聞、チラシ・約94±4%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約90±5%である。アフターコロナはまだであるが人気のあるゴルフ場は平日もいっぱいのもので、旅行や消費UPの政策効果も直ぐには秋需として現れず、紙の消費と古紙の集荷増量には程遠く繋がらず、その結果の古紙発生も前年割れの組合員が多いように思われる。日本国にとって最低賃金アップは良いことであるが、売上と粗利がついてこなければ、難しい問題である。加えて賞与の季節となり、心して収益の再配分をしようとする経営者も考えているが、明るい兆しが見えない中で行う事はなかなか難しいのが現実だと思う。輸出段ボール古紙の国際ドル価格が下落したとの事であるが、6月位より船賃が値下がりして国内運賃が多少値上がりしたとしても年初115円で現在145円の円安で30円の為替差がある中、古紙輸出の円の手取り価格が最低でも20円はあるように考えられるが、合点がいかない。海外原紙価格も暴落との事で製品輸出が止まっている会社があり、急速な古紙在庫の積み増しがある。国内の紙・板紙の製品原紙販売の価格値上げも打ち出されたが、先行きは難しくよく分からない。古紙の持ち去り行為禁止の法制化は一時ストップのようで腹が立ち、善良な古紙業者の首を絞めるこの行為は今も無くならず加えてゴミの置き去り行為も回収容器に投げ込む者が増えてきて悪質となり法的対応と罰が必要である。
印刷	印刷	製紙メーカーは原燃料、物流コスト、人件費等の高騰に加えて世界情勢の激変、急激な円安を理由に今年2回目の価格改定（値上げ）を発表した。それに伴い印刷業界の仕入れ先である製紙メーカーの代理店や卸売商は、事前に発表できないほど急な日数での改定（紙全般15%以上）をせざるを得なくなり、さらにその突然の改定を受けざるを得ない印刷業界は、過去に経験のない今年2回目の価格転嫁の協議を発注企業等に申込み、話し合いに応じてもらえるよう奔走するが、企業によっては発注量の減少や取引を断られることを考慮して価格転嫁が出来ないなど非常に厳しい業況である。
窯業・土石製品	伊賀焼	徐々に注文等が増えてきて生産も増えてきている。しかしながら、原材料費、光熱費等の上昇により、組合員は頭を悩ませている。先行きも見えづらいため、価格にどう反映させていくかが悩みの種である。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は9月とほぼ同様で、自動車関連部品が若干減少し、建築関連部品及びガス関連部品は横ばいの状態である。半導体関連は好調と言いつながら伸び悩みの傾向である。来年始めは少し減産傾向にあるといわれている。原材料の高騰、エネルギー価格の高騰（ガス、重油、電力料）が続きそれによる収益の圧迫で経営面では非常に厳しい状況が続いている。

製
造
業

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
一般機器	四日市	実状、業況は急激な円安、半導体不足や紛争の長期化による仕入れ価格の上昇、自動車関連は未だ低調のため企業経営に響いている。業績は横ばいや下向きの傾向はあっても上向き兆しは見受けられない。
	津市	材料単価の上昇分は売上単価の上昇に反映されているので、売上については昨年より増加した。ただし、材料以外のもの(光熱費や運送費)は反映できず、収支は昨年より減少している。半導体不足やコロナの影響はあるものの休業には至っていない。しかしながら、自動車部品だけの得意先では、10月は2~3回の休業があった。なかなかコロナ前のように戻ってこない状況である。
	伊勢	ウクライナ問題の長期化が欧州からの海外経済の減速となり、輸出産業へのマイナスに下押しの圧力になっている。しかし、ここ数ヶ月はコロナの感染状況やモノ不足に動きを制約されながらも持ち直し傾向になっている。コロナ禍で先送りされていた需要も上昇してきた気がする。半導体等の制約も徐々に解消に向かうよう期待している。
	電気機器	鳥羽
輸送機器	鈴鹿	鈴鹿市内の大手自動車メーカーでは、生産数挽回のため休日稼働を2回予定していたが、部品供給不足のため、その2回とも取り止めになり、バックオーダーの挽回は遅々として進んでいないようである。
小売業	青果	野菜前半：三連休を前に荷動きが活発になっている。長野産の白菜は入荷が増えていますが、気温が下がり需要が高まったため高値である。大根は価格が落ち着いている。北海道産の玉ねぎ、じゃがいもはお買い得である。レタスは長野産が日照不足でやや高値である。 野菜後半：長野産の白菜の入荷が増え、値下がりしている。大根も産地が増えたことで順調に入荷し、値下がりしている。地場産のほうれん草も順調に入荷してお買い得である。トマト、ミニトマト、きゅうりといった果菜類は、高値で推移している。 果物前半：和歌山産の「刀根柿」は今が旬で食べごろである。また、種がないのでおすすめ種である。人気の長野産「シャインマスカット」は、出荷もピークを迎え、価格もお手頃である。みかんは、台風14号、15号の影響で入荷が少なく、価格は昨年並みである。 果物後半：青森産の「早生ふじ」、長野産の「シナノゴールド」等、さまざまな品種が楽しめ、味も良く値段も昨年より安価である。柿は「刀根柿」や県内産の「次郎柿」も多く入荷している。「早生ミカン」は、県内産をはじめ、和歌山、愛知、静岡等の産地より入荷が増え、お買い得である。
	自転車	スポーツの秋、この季節は自転車を利用する機会も多くなり、各地区にて様々なスポーツイベント、自転車競技大会等が開催された。自転車店を多く利用するこの時期になっても、全国的に商品の動きは鈍く、お店によっては店舗型安全点検を実施するものの、来店客は昨年の2/3程度であった。10月21日、自転車の点検整備並びに自転車の安全利用に関する指導の業務に従事する安全整備登録店が参加する地域研修会を開催したところ、組合員の半数以上の出席があった。テーマ「インボイス制度の内容及び対応」、「自転車安全整備制度の新規導入」(12月1日から変更)等について学び、今後の販売に生かすための取組みを行った。
	電器	コロナ、ウクライナ、ロシア関連の話題は少し落ち着いた感じで、全国旅行支援の施策によって外出の頻度が上がってきたように思う。しかし、家電業界としては原油高と円安の影響を受けている家電メーカーの製造コスト上昇によってまだまだ価格の値上げが見受けられる。地域の商品券発行などで補填しているが、買え控えの状況は続きそうである。
	石油	岸田首相は14日、公明党の山口代表と首相官邸で与党党首会談を行い、政府が今月末にとりまとめる予定の総合経済対策で、燃料油価格激変緩和対策事業について、出口戦略を進めつつ、来年1月以降も継続することで合意したことを明らかにした。同会談後の記者会見で明らかにしたもので、岸田首相は、12月末まで延長しているガソリンなどの激減緩和事業について、「今年5月以降、毎月3千億円程度の国費を投入し、スタンド価格で約30円の幅で価格上昇を抑えてきた。来年1月以降も補助上限を調整しつつ引き続き実施していきたい」と述べた。サービスステーション業界にとって販売数量を保つためには安定したガソリン価格が必須であるし、個人消費にとっても産業界にとっても安定した価格が継続されることを望むものである。
	スポーツ	前月同様に行動規制が緩和され、各種スポーツ大会が前年に比べて多く開催された。伊勢志摩地域としては、観光客が多くなり、伊勢神宮内宮前のおかげ横丁やおはらい町の人出を見ていると、コロナ感染は心配ないのかと思うほどである。このままコロナ前の状況に戻ってほしい。
商店街	熊野市	全国旅行支援が始まり、他府県ナンバーの車も以前より増え、また海外からの旅行者の姿も見かけるようになり、徐々にコロナ禍前の状況に戻つつあるが、ウクライナ情勢や円安の影響で原材料の高騰が続いており、仕入れに関しては今後厳しい状況がまだまだ続くと感じる。

非
製
造
業

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和4年10月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
サービス業	旅館	9月後半より10月初旬にかけては、10月11日に発表される「全国旅行支援」を待っていたかのように予約件数が伸びず閑散としていた。しかし発表されると同時に予約が集中したため、国内最大の予約サイトが機能不全となり、多くの契約旅館ホテルはパニックとなり、復旧するのに数日間要した。10月の予約数はコロナ禍前の60～70%、対前年は100～120%程度の戻りであった。
	警備	昨年と受注量は同じであるが、経費等の高騰について、業者からある程度認められてきて、販売価格も上昇した。
建設業	内装工事業	10月分も9月同様、前年同月比でプラスとなった。ただし、コロナや円安等の影響があるので、今後の予測は難しい。
	水道工事業 (亀山)	資材等の入手困難な状況は変わらない。先行きは不透明な状況であるが、資材の見積等や市場の動きが読めないため、価格面で受注できるかが不透明である。
運輸業	トラック	軽油価格が値下げ傾向にあったが、今月に入り値上げに転じたため、依然として経営を圧迫する要因となっている。10月に入り新型コロナウイルス感染者数が減少しており、企業活動全体に持ち直しの状況が続いている。電子・デバイス部門では、世界的なインフレによる個人消費の落ち込みから減少傾向に転じ、関連する輸送についても減少した。自動車関連部門については、依然として半導体不足及び不安定な海外情勢等の影響から減産傾向が続いていることから、輸送についても依然として厳しい状況である。その一方で、公共工事は増加傾向となったことから、土木関連の輸送は増加に転じた。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	組合委託事業 (10月～3月) に積極的に月2回程度の会合をもって進めていく。組合員と更なる団結をしていけるように取組んでいく。
一般機器	四日市	仕入価格の上昇分しか販売価格に転嫁できず、自動車業界の低迷長期化により稼働が停滞したり資金繰りが悪化する企業も多くみられる、そういった現状の把握ときめ細やかな支援と現在実施されている補助や助成対策の延長を希望する。コロナ対策に関して年末年始にかけて感染者増加という情報もあり今のうちに感染防止対策と経済との両立が図れるような更なる環境の整備を希望している。
サービス業	旅館	業績が少し戻ってくると、人手不足で予約を調整するような深刻な状況にあるため、「宿泊業外国人労働者雇用促進協議会」より要望している「特定技能」、「技能実習」における作業内容の制限等の緩和と出入国手続きの簡略化を早急をお願いしたい。